

クリスマスツリー

イエス様が生まれた時、人々も、動物たちも、
草木も、みんな、とても喜んでいました。イエス様は、
世界中に平和と幸せをもたらすために生まれたのです。
人々は毎日、この小さな赤ちゃんに会いにやって
来ました。そして、おくり物を持って来ました。



あか 赤ちゃんがねている うま や 馬屋の そばには、 3 本の 木が 立っていました。この 木たちも、あか 赤ちゃんの キリストに おくりもの を したいと ねが 願っていました。

やし の 木が 言いました。「わたしは、いちばん 一番 きれいな 葉を 使って、あか 赤ちゃんを あおいで あげるわ。」

「ぼくは、あか 赤ちゃんの あたま 頭に、あま 甘い 香りの する オイルを 注いで あげるよ。」と、オリブ の 木も 言いました。



「ぼくは、^{あか}赤ちゃんに^{なに}何をあげられるだろう？」と、そばに^た立っている
モミの^き木が^い言いました。

すると、^{ほか}他の^き木たちが^{こえ}声をあげました。「おまえがか？ あげられる
ものなんて、^{なに}何もないだろう。おまえの^{はり}針はチクチクするし、なみだだって、
ベタベタじゃ^{ない}ないか。」

かわいそうなモミの^き木は、とても^{かな}悲しくなりました。「そうだよね。
ぼくには、^{あか}赤ちゃんのキリストにあげられるものなんて、^{なに}何も^{ない}ないよね。」

さて、木々のすぐそばには、クリスマスの天使が立っていました。
木たちの会話を耳にした天使は、他の木たちをうらやましがらない
けんきよなモミの木を気の毒に思いました。それで、夜になって
星々が空に出てくると、いくつかの小さな星たちに、空からおりて
きて、モミの木のえだに止まってくれないかと頼みました。



クリスマスの天使に頼まれた星たちは
おりてきて、モミの木のえだに止まりました。
するととつぜん、モミの木は
美しい光でかがやき始めました。

その時です。今までねむっていた
赤ちゃんのキリストが目を開けました。
美しい光が赤ちゃんを照らすと、
赤ちゃんはほほえみしました。





まいねん ひとびと じょう いわ もの
毎年、人々は キリストの たん生を 祝って、おたがいに おくり物を します。そして、
キリストの さいしょ じょうび きねん かくかてい き
最初の たん生日を 記念して、各家庭では モミの 木が かざられます。
ほし ほし あか
星のように かがやく ライトで かざられた ツリーは、星たちが 赤ちゃんの
キリストを 照らしたように、子どもたちを 照らします。モミの 木は、その
にゅうわ き おおぜい しあわ
柔和さが むくわれました。モミの 木ほど、大勢の 幸せそうな
かお て き ほか
顔を 照らせる 木は 他に ないのです。